

平成29年度

「運営に関する計画」

大阪市立南港南中学校

平成29年4月

(様式1)

大阪市立南港南中学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

1、生活指導上の現状と課題

校内は非常に落ち着いた学習環境が提供できている。

(記録に残る問題行動件数 昨年度は10件未満)

しかしながら不登校生の割合は高いので改善を要する。 6.9% (130人中9名)

2、学習面での現状と課題

生徒は授業に対し静かに熱心に取り組んでいる。

課題としては全体としての学力の向上である。

(全国学力学習状況調査における標準化得点)

国語A 97.4 国語B 95.9 数学A 97.1 数学B 99.8

授業が規律ある状況で行われているので、教員が創意工夫をいかんなく発揮できる現状であり、全教員が生徒の学習意欲を引き出し、理解を深めるために従来の指導方法にとらわれず、主体的・対話的な深い学び(アクティブラーニング)等のプラスαの要素を取り入れ進めなければならない。

3、その他の現状と課題

現状としては少子化に伴い、生徒数が減少し部活動数も限られ活気が失われつつある。したがってこれまで以上に小中連携や地域連携を充実させるとともに魅力ある教育内容を整えて、安全で安心して通える学校・子どもが楽しく学習し、力を伸ばせる学校として多くの園児・児童が就学希望する学校づくりが必要である。(全学年2学級)

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

施策1・校内規律を順守する生徒集団を育成する。生徒アンケートにおいて「校則を守っている」の肯定的回答を平成32年度末までに98%以上にする。

生徒アンケート「校則を守っている」の肯定的回答率

26年度末	27年度末	28年度末
90%	94.2%	91.8%

施策2・子どもの情操教育に力を入れ、いじめ・不登校の未然防止に努める。

子どもの実態把握・教員の相互情報交換を密に行い、いじめの早期発見、対応を心がけ、常に100%解決する。

不登校については32年度末には、全校児童生徒の3%以内にする。

施策3・小中一貫校として児童生徒・保護者から安心して通える学校、魅力ある学校として評価を得て、平成31年度末までに校区外入学希望者を20名以上にする。

年度別入学希望者の増減 最終増減（校区内、校区外）

27年度4月	28年度4月	29年度4月
-7（内-7、外0）	-16（内-17、外+1）	+6（内-4、外+10）

- ・いろいろな文化、芸術活動を通して、豊かな発想力や表現力を培うとともに地域行事やボランティア活動に積極的に参加し地域の中で見守られる学校にする。地域との連携行事を平成32年度末には年間5回以上行う。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

施策4、施策8

- ・小中一貫校として地域の幼稚園2や保育園2、高齢者施設との交流イベントを推進して、幼・小・中の連携を深めるとともに、人との触れ合いの中で心豊かな児童生徒を育成する。
平成32年度末には、幼稚園と、一貫校との交流イベントが学期に1回以上実施する。

施策5・国社数理英の各教科において習熟度別少人数授業やT・Tを実施し、一人ひとりの児童・生徒に応じた学習支援をする。各教科で学力経年調査やチャレンジテストにおいて標準化得点を100以上にする。

- ・家庭学習の習慣定着をめざしてEラーニング、家庭学習ノート等の取り組みを通し、生徒アンケートで「家庭学習が習慣になっている」という肯定的回答を各学年の経年変化において毎年5%以上向上させる。

施策6・タブレットやPCを活用した授業実践を全教科で多く取り入れ、ICT機器の活用を抵抗なく行えるよう慣れ親しませる。また、プログラミング教育に重点を置き、目的達成に向けて、論理的思考力や豊かな発想で取り組む習慣を定着させる。
平成32年度末の生徒アンケート「タブレットやPCを取り扱うことは楽しい」の肯定的回答を70%以上にする。

施策7・体育・スポーツ活動に力を入れて基礎体力を向上させ、全国体力運動能力、運動習慣調査において全調査7種目全項目で全国平均を上回る。

- ・大学や福祉施設と連携し特別授業や研修会を実施していただき、健康に対する意識を高めるとともに、高齢化が進む南港の中で自分たちの役割を自覚させる。
毎年特別授業を年間5回以上実施する。
- ・保護者の食育に対する意識の向上を目指した啓発活動を進め、生徒アンケートにおいて「毎日朝食をとっている」の肯定的回答を毎年度95%以上にする。

施策を実現するための仕組みの推進

【小中一貫校である本校の特色を強く打ち出し、全市に発信する】

施策 8 ・ 毎年度の児童生徒アンケートにおいて「学校は楽しい」を 95%以上にする。

- ・ 体育・スポーツ活動に力を入れて、児童生徒が達成感や満足感を得られる取り組みを進める。

生徒アンケートにおいて「部活動は楽しい」を 80%以上にする（運動部）

- ・ 文化芸術活動に力を入れ、児童生徒が充実感のある取り組みを進める。

生徒アンケートにおいて「部活動は楽しい」を 80%以上にする（文化部）

- ・ プログラミング教育を推進し、知識の量よりも答えを導き出す過程に重点を置き、問題解決能力・応用力を伸ばすカリキュラムを進める。

平成 33 年度実施の全国学力学習状況調査における国語・数学のいわゆる B 問題の回答率・正答率を全国以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- ・平成 29 年度の生徒アンケートにおいて「校則を守っている」の肯定的回答を 95%以上にする。
- ・平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについては解消した割合を 100%にする。
- ・平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる割合を前年度より減少させる。
(5%未満にする。)
- ・平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- ・地域行事やボランティア活動に積極的に参加し地域の中で見守られる学校にする。
地域との連携行事を年間 5 回以上行う。
- ・校区外入学希望者を 10 名以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・各教科（国社数理英）で学力向上をめざして授業改善を行い、平成 29 年度のチャレンジテストにおいて標準化得点を 95 以上にする。
- ・平成 29 年度のチャレンジテストにおける正答率 3 割以下の生徒を同一の母集団で比較しいずれの学年も、前年度より 5 ポイント減少させる。
- ・平成 29 年度のチャレンジテストにおける正答率 6 割以上の生徒を同一の母集団で比較しいずれの学年も、前年度より 5 ポイント増加させる。
- ・平成 29 年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。
- ・全国体力・運動能力、運動習慣調査において全調査 7 種目 5 項目で全国平均を上回る。

学校園の年度目標

- ・交流イベントを学期に少なくとも 1 回は実施する。
- ・生徒アンケートで「家庭学習が習慣になっている」という肯定的回答を 55%以上にする。
- ・生徒アンケート「タブレットや PC を取り扱うことは楽しい」の肯定的回答を 50%以上にする。
- ・大学等外部から講師を招いた特別授業を年間 3 回以上実施する。
- ・生徒アンケートにおいて「毎日朝食をとっている」の肯定的回答を 90%以上にする。

【その他】

【小中一貫校の中でも本校の特色を強く打ち出し、全市に発信する】

学校園の年度目標

- ・児童生徒アンケートにおいて「学校は楽しい」を90%以上にする。
- ・体育・スポーツ活動に力を入れて
児童生徒アンケートにおいて「部活動は楽しい」を70%以上にする（運動部）
- ・文化芸術活動に力を入れて
児童生徒アンケートにおいて「部活動は楽しい」を70%以上にする（文化部）
- ・プログラミング教育を学校として推進し、知識の量よりも答えを導き出す過程に重点を置き、全国学力学習状況調査における国語・数学のいわゆるB問題の回答率・正答率を95以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

Blank box for the summary of self-evaluation results for this year.

(様式2)

大阪市立南港南中学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none">・平成29年度の生徒アンケートにおいて「校則を守っている」の肯定的回答を95%以上にする。・平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについては解消した割合を100%にする。・平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる割合を前年度より減少させる。(5%未満にする。)・平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童を前年度より減少させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none">・地域行事やボランティア活動に積極的に参加し地域の中で見守られる学校にする。地域との連携行事を年間5回以上行う。・校区外入学希望者を10名以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1・安全で安心できる学校、教育環境の整備】 校内規律を順守する生徒集団を育成する。</p> <hr/> <p>指標 生徒アンケートにて「校則を守っている」の肯定的回答を95%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【施策2・道徳心・社会性の育成】 子どもの情操教育に力を入れ、いじめ・不登校の未然防止に努める。</p> <hr/> <p>指標 いじめについては100%問題解決する。不登校生徒の割合を5%未満にする。</p>	
<p>取組内容③【施策3・地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 小中一貫校として児童生徒・保護者から安心して通える学校、魅力ある学校として評価を得る</p> <hr/> <p>指標 学校選択制において校区外入学希望者を10名以上にする。</p>	
<p>取組内容④【施策3・地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 地域の中で見守られる学校にする</p> <hr/> <p>指標 地域行事やボランティア活動に積極的に参加し、年間5回以上行う。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(様式2)

大阪市立南港南中学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【2つの最重要目標】</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標 (小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none">・各教科(国社数理英)で学力向上をめざして授業改善を行い、平成29年度のチャレンジテストにおいて標準化得点を95以上にする。・平成29年度のチャレンジテストにおける正答率3割以下の生徒を同一の母集団で比較しいずれの学年も、前年度より5ポイント減少させる。・平成29年度のチャレンジテストにおける正答率6割以上の生徒を同一の母集団で比較しいずれの学年も、前年度より5ポイント増加させる。・平成29年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。・全国体力・運動能力、運動習慣調査において全調査7種目5項目で全国平均を上回る。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none">・交流イベントを学期に少なくとも1回は実施する。・生徒アンケートで「家庭学習が習慣になっている」という肯定的回答を55%以上にする。・生徒アンケート「タブレットやPCを取り扱うことは楽しい」の肯定的回答を50%以上にする。・大学等外部から講師を招いた特別授業を年間3回以上実施する。・生徒アンケートにおいて「毎日朝食をとっている」の肯定的回答を90%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策4・全ての基礎となる幼児教育の普及と質の向上】 【施策8・施策を実現するための仕組みの増進】 幼稚園や福祉施設との交流イベントを実施する。</p> <hr/> <p>指標 学期に少なくとも1回は実施する。</p>	
<p>取組内容②【施策5・子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 国社数理英で学力向上をめざして授業改善を行う。</p> <hr/> <p>指標 チャレンジテストにおいて標準化得点を95以上にする</p>	
<p>取組内容③【施策5・子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 家庭学習の習慣定着を目指す。</p> <hr/> <p>指標 生徒アンケートで「家庭学習が習慣になっている」の肯定的回答を55%以上に にする。</p>	
<p>取組内容④【施策6・国際社会において生き抜く力の育成】 ICT機器の活用、プログラミング教育を推進する。</p> <hr/> <p>指標 生徒アンケートにおいて「タブレットやPCを取り扱うことは楽しい」の肯定的 回答を50%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑤【施策7・健康や体力を保持増進する力の育成】 体育、スポーツ活動に力を入れる</p> <hr/> <p>指標 全国体力・運動能力、運動習慣調査において全調査7種目5項目で全国平均を 上回る</p>	
<p>取組内容⑥【施策7・健康や体力を保持増進する力の育成】 健康に対する意識を高める</p> <hr/> <p>指標 外部から講師を招き特別授業を年間3回以上行う。</p>	
<p>取組内容⑦【施策7・健康や体力を保持増進する力の育成】 食育に対する意識向上を図る</p> <hr/> <p>指標 生徒アンケートにおいて「毎日朝食をとっている」の肯定的回答を90%以上 にする</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式2)

大阪市立南港南中学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
学校の年度目標 【小中一貫校の中でも本校の特色を強く打ち出し、全市に発信する】 ・児童生徒アンケートにおいて「学校は楽しい」を90%以上にする。 ・体育・スポーツ活動に力を入れて 児童生徒アンケートにおいて「部活動は楽しい」を70%以上にする(運動部) ・文化芸術活動に力を入れて 児童生徒アンケートにおいて「部活動は楽しい」を70%以上にする(文化部) ・プログラミング教育を学校として推進し、知識の量よりも答えを導き出す過程に重点を置き、全国学力学習状況調査における国語・数学のいわゆるB問題の回答率・正答率を95以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策8・施策を実現するための仕組みの増進】 体育・スポーツ活動に力を入れ満足感、達成感を得させる。	
指標 児童生徒アンケートにおいて「学校は楽しい」を90%以上 「部活動は楽しい」を70%以上にする(運動部)	
取組内容②【施策8・施策を実現するための仕組みの増進】 文化芸術活動に力を入れ充実感を持たせる	
指標 児童生徒アンケートにおいて「学校は楽しい」を90%以上 「部活動は楽しい」を70%以上にする(文化部)	
取組内容③【施策8・施策を実現するための仕組みの増進】 プログラミング教育を学校として推進し、論理的思考力を高める	
指標 全国学力学習状況調査における国語・数学のB問題の回答率・正答率を95以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

各教科における学習指導の重点

教科名	国語科
<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字を用いて漢字の成り立ちや由来などを紹介して漢字のおもしろさを感じさせ、漢字の定着を図る。適宜小テストを行い合格者8割以上を目指す。 ・11月の漢字検定に向けて、目標を明確に持たせ、継続的な学習ができるように教材や方法を工夫するとともに、各学年と協力して総合などの活用を図り、合格者6割以上を目指す。 ・「語彙力」を高めるため、教科書で扱う教材に留まらず、自らの周りにある様々なものに目を向けさせ、豊かな言語生活に気付かせる。 ・漢字力・語彙力の活用のために、はがきや手紙文の書き方、新聞記事を取り入れた授業、スピーチ（発表）の授業、グループ学習などを少なくとも学期に1回取り組む。 ・日頃のノート指導、書写の授業、漢字プリントなどを通して、文字を丁寧に書くことを意識し、定着させる。 ・作文や感想文などを書く機会を増やし、書く力をつける。必ず添削をして返却し、自分が書いた文章を推敲する力をつける。 ・家庭学習を促すための課題を作成する。 ・長期休業中や放課後を中心に、個別指導を行い、特に苦手な分野や内容の克服に努める。 ・学年の朝読書の取り組みと連携し、読書活動の指導にもあたる。 	

※ 数値目標もお書きください。

各教科における研修の重点

教科名	国語科
<ul style="list-style-type: none"> ・言語力を高める授業の指導力を養うために、各研修（市EC、府EC、市人教研修など）に参加し、多様な教材や指導法を学ぶ。 ・絶対評価について妥当で公平な評価方法、評価基準について研修を積む。 ・小中一貫教育やICT教育など本市で行われている取り組みについて、実践記録や公開授業を通して研修を積む。 ・長期休業中は教科にとらわれず、人文科学、自然科学、社会科学の各分野についての研修に参加し、より広い知識・知見を持てるようにする。 	

各教科における学習指導の重点

教科名	社会科
<ul style="list-style-type: none">・基礎学力の定着をはかるため、単元ごとに問題集やワークシートの活用などを行い、家庭学習用のプリントを作成するなど、習慣づけを行う。・授業プリント等を通じて、チャレンジテストでも課題が見られた資料の読み取りや「自分の考え」を表現できるようにする。・「資料の活用」の分野において、長期休暇等を利用し、資料の作成を1つ以上取り組ませる。・時事問題に関心を持たせるようにする。新聞やインターネットのニュースを使用して、世の中の動きに関心を持たせる。・観点別の「社会的思考・判断・表現」の弱さが目立つことから、定期テストにおける観点別問題の無解答率を10%以下にする。・2年生を中心にTTを行い、きめ細やかな指導を行う。・地歴の関連を持たせられるように授業実践を行う。	

※ 数値目標もお書きください。

各教科における研修の重点

教科名	社会科
<ul style="list-style-type: none">・地理歴史並行のため、より関連を持たせられる授業ができるような授業実践を引き続き行う。・選挙権が18歳に引き下げられたことに伴い、有権者教育に取り組む。・昨年に引き続き、ICT機器の利用で効果的な資料提示を行う。	

各教科における学習指導の重点

教科名	数学科
<p>小中一貫校に向けて校区内小学校との連携をとり、小学校での指導方法を参考に指導計画を考え、全国学力学習状況調査の分析を踏まえ、基礎・基本の定着を図るために、次の項目に指導の重点をおく。</p> <ol style="list-style-type: none">① 学習規律等の充実を図るため、授業遅刻・忘れ物0%を目指す。② 言語活動等の充実を図るため、ノート提出率 90%以上・授業での質問回答率 90%以上を目指す。③ 基礎学力の定着を図るため、指導の中で数学用語を積極的に用いて、その意味を理解させ、論理的思考力の向上を目指す。また、定期テストやその他テストにおいて、正答率 10%未満の生徒数0人を目指す。④ 家庭学習等の定着を図るため、定期的に課題を出し、提出率 90%以上を目指す。	

※ 数値目標もお書きください。

各教科における研修の重点

教科名	数学科
<ol style="list-style-type: none">① 小中一貫校に向けて、校区内小学校との連携会を行い、小中の「算数・数学」での相互参観・研究授業を行う。② 授業力の向上を図るため、教科内で相互授業参観や研究授業を行い、「複数で指導する体制づくりをめざす」ための研修を実施する。③ チームティーチングや少人数授業・習熟度別授業で「わかりやすい・手を挙げて発言しやすい・集中して授業を受けやすい・わからない所を質問しやすい」等のアンケートを行い、課題を明確にした学力向上のための教科会を充実させる。また、実施した授業の内容について相互に意見交換し、授業力向上のための教科会を充実させる。④ 絶対評価の実施に伴い、生徒の実態に応じた評価が行えるように充実した教科会を持つ。	

各教科における学習指導の重点

教科名	理科
<p>① 基礎学力の充実 基本的語句の確認プリントを授業でも繰り返し行い、満点を取ることを目標にして指導する。それによって学習意欲を持たせる。</p> <p>② 実験・観察を中心に据えた理科授業の実践 実験・観察の重要性を考え、昨年同様、実験・観察授業については、準備、実践等を理科教諭2人が協力して行う体制をつくっていく。教室での演示実験等は半分以上の授業で、実験室での授業を月1回以上、単元によってはそれ以上行う。</p> <p>③ パソコン・タブレット等をより活用し、ICT授業を昨年度以上に行う。</p>	

※ 数値目標もお書きください。

各教科における研修の重点

教科名	理科
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活のあらゆる場に、科学・自然に関する考察事項は存在する。それらすべてに興味関心を持ち、自ら研修、探求を続けていきたい。 ・ そのためにも、季節による動植物の変化、気候・天気の変化とその原因、日々の太陽や星の動きなど、身の回りの自然を興味深く観察し、それらを中学生に伝える力を養っていく。 ・ また時事の科学ニュースや話題となった事柄についても自ら興味を持ち、中学生が興味、感心が持てるように解説する力を養う。 ・ それらを活用し、わかりやすく興味を持てる授業と、知識・理解が定着する生徒を育てる授業を両立させながら、授業研究を行っていく。ICTを活用した今までにない授業形態についても考えていきたい。 	

各教科における学習指導の重点

教科名	音楽科
<ul style="list-style-type: none"> ・行事で「美しく豊かな声」を出せる歌声をめざした歌唱指導を年間を通じて行い、「美しく豊かな声」を出せる生徒を80%以上にする。 ・各クラスの音楽係りを中心にリコーダー、歌唱の準備演奏・体操号令を毎時間行い、生徒が主体となって取り組む授業を目指す。 ・平成28年度から取り組んでいるPTAコーラスを文化発表会で実施し、昨年度よりも多くの職員、PTAと合同演奏をする。練習を9月から4回程度行う。 ・楽譜に慣れ、音符に親しむために「写譜」の課題において取り組む行数を30%向上させる。 	

※ 数値目標もお書きください。

各教科における研修の重点

教科名	音楽科
<ul style="list-style-type: none"> ・南港渚小学校・緑小学校の兼務にあたり、小学校高学年から「音楽が苦手」という生徒を減らす。(小学校教科担当教員との歌唱指導、リコーダー指導の充実、連携を図る) ・小学校の閉校式にあたる行事のサポートを行う。 ・「吹いて奏でて楽しもう！音楽を通じた未来のすみのえを担う人材育成」事業に参画し、本校、南港北中学校、渚・緑・光・桜小学校との小中連携を図る。また、大阪市音楽団、相愛大学と提携し、本校の生徒が「本物」に接する機会を提供する。 ・「コールラポール」(南港渚小学校 OGPTA コーラス)として南港コーラスフェスティバルに参加し、地域の生涯学習の取り組みに出演する。 	

各教科における学習指導の重点

教科名	美術科
<ul style="list-style-type: none">・宿題や作品、プリントなどの提出率を90%以上にする。・道具や画材の使い方・片づけ方のルールを徹底し、物の大切さを教え、ルールを守って授業に参加できるように指導する。・生徒作品の掲示または、発表や展示、鑑賞会などの機会をつくり、作品を鑑賞することで自他との違いや、作品の良さや美しさを認め合う心を育てる。・作品完成後に、テーマや作品説明、工夫点などを記入させ、作品だけでは見とれない部分も記入の内容から評価するようにする。・各学年、学期に1回以上は鑑賞の授業で作品についての意見を述べさせたり、作品の発表を行ったり、ワークシートに記述させるなど、鑑賞学習を通して言語活動の充実を図る。・必要に応じて各学年でICT機器を使用し、制作手順の説明や作品の鑑賞などに活用し授業の質を高める。・全体が意欲を持って制作に取り組み、生徒一人一人の能力を高めるため、様子を机間巡視などで見取り、発想や技能などCからBに引き上げることを重点的に行い、サポートする。	

※ 数値目標もお書きください。

各教科における研修の重点

教科名	美術科
<ul style="list-style-type: none">・中教研美術部の研究会に参加し、他校との交流を積極的に行う。・長期休業期間中に行われる、研修会に参加し技術の向上を目指す。・研修に参加し、材料の扱い方や教材についての理解を深め、授業を充実させる。・小学校の図画工作の指導の様子を参観し、中学校の美術の活動に活かす。	

各教科における学習指導の重点

教科名	保健体育科
<ul style="list-style-type: none"> ・ 体力向上（男子において、平均値を大阪平均より上回る。女子は、新体力テストのポイント合計を平均3ポイント上回る。） ・ 3年生の水泳で、4泳法習得率80%以上。 ・ 補助倒立、ブリッジの習得率が90%以上。 ・ 忘れ物のない授業作りを目指す。95%以上。 ・ 男女共修による授業「集団行動」「体づくり運動」を通して、集団意識、安全意識の向上を図る。 ・ 授業プリントの活用、授業ノートの制作を通して、「より解る」「よりできる」授業につなげる。 ・ 保健分野において自身の身体について考えさせ興味関心を持たせる。 ・ 体育理論を含む説明を取り入れ、思考力や言語力を高める。 ・ 自分に見合うスポーツを見つけ、生涯スポーツにつながるよう指導していく。 	

※ 数値目標もお書きください。

各教科における研修の重点

教科名	保健体育科
<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育実施場所の環境整備の徹底と、危険な動き、安全な動きの見本の研究 ・ 男女共修の授業を実施し、互いの指導法や授業展開について研鑽しあう。 ・ 生徒が「自分の言葉で表現する」、「説明やアドバイスを自分の体で表現する」ことができるような教科指導法の研究 ・ 絶対評価において、生徒へ目標設定を提示できるよう教科会を定期的に持つ。 ・ 集団行動の授業が学校全体の集団意識へつながるよう、教科をこえて共通理解できるよう伝え合う。 	

各教科における学習指導の重点

教科名	技術科
<p>① 授業遅刻、持ち物点検を行い、授業への関心意欲の向上を促す。</p> <p>② 実習を中心とした授業展開をし、ものづくりに対して興味や関心を持たせる。(ものづくりが楽しいという生徒が80%以上になるようにする。)</p> <p>③ 自律型ロボットを用いてプログラミング学習を行い、問題解決能力を高める。</p> <p>④ 道具や機械の使用方法について実習を通じて経験させ、基礎的・基本的な技術の習得を目指す。</p> <p>⑤ 情報分野については3年間を通じて実施し、身近な所で利用されている情報分野の重要性について理解を深めるよう指導する。</p> <p>⑥ 実習作品の完成率を90%以上にするため、サポートを行う。</p>	

※ 数値目標もお書きください。

各教科における研修の重点

教科名	技術科
<p>① 絶対評価について、評価方法や評価基準について研鑽をつむ。</p> <p>② 情報分野は変化が速いため、常に情報の収集に努める。緊急性のある内容は、指導計画にある内容を変更して授業を行う。</p> <p>③ 積極的に研修会に参加し、常に最新の技術について知ること、授業の充実を図る。</p> <p>④ ICT機器の活用方法について、自校だけでなく他校の教員とも情報交換を行い、ICT機器を活用した授業の充実化を図る。</p>	

各教科における学習指導の重点

教科名	家庭科
<ul style="list-style-type: none">・授業遅刻や忘れ物チェックを行い、授業に参加する意識を持たせる。・提出物の提出率を90%以上目指す。・授業で教科書に載っていない、時事的な身近な話題にも触れながら関心意欲を促す。・実習では、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識や技術を習得できるように指導する。・実習においては、90%以上の生徒が完成できるようにサポートする。	

※ 数値目標もお書きください。

各教科における研修の重点

教科名	家庭科
<ul style="list-style-type: none">・生徒の身近な問題や実体験に基づいた課題について意見を述べる場を設ける・具体物を多く取り入れ、生徒が主体的に学ぶ場を設ける・ICTや具体物を取り入れた実習を行う	

各教科における学習指導の重点

教科名	英語科
<ul style="list-style-type: none">・「話す、聞く、読む、書く」の4技能の向上を図り、各学年に応じたレベル（1年生...初歩的な文を用いて自己表現ができる。 2年生...基本的な文を用いて、自己表現をより充実させることができる。 3年生...相手に伝えたいことを、自分の言葉で表現することができる。）のスピーチやプレゼンテーション等を行い、実践的な運用能力を養う。・長期休業中等の授業以外での時間も利用し、英検の取得者数を増やす。5級受験者数の80%、4級受験者数の60%、3級受験者数の50%合格を目標に指導していく。卒業時に3級以上獲得を目指し活動する。・JET1とJET2（C-NET）が協力し、個々のレベルに応じた指示、指導をしていく。	

※ 数値目標もお書きください。

各教科における研修の重点

教科名	英語科
<ul style="list-style-type: none">・出前授業や相互参観を行い、英語科としての小中連携を図り、英語への苦手意識解消に努める。また、小学校で取り組んだことと類似したものを中学校で行うことで中学生になった時の躓きを軽減させる。・研修等に積極的に参加し、「英語」という教科への意識を前向きにしていく。・ALL English 授業を目指して、積極的に外部セミナー等に参加し、授業力の向上に努める。・C-NETと協力し、英語圏だけでなく、様々な国の文化や背景を紹介し、言語習得に関する興味、関心、意識を高める。	

各教科における学習指導の重点

教 科 名	特別支援教育
<ul style="list-style-type: none">・生徒が自立し、社会参加するために必要な力を培うため、生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握する。・ニーズを受けて、可能性を最大限に伸ばし、生活や学習上の困難を改善または克服するため、入り込みで適切な指導及び必要な支援を行い、集団生活を身につけさせる。・生徒が基本的な生活習慣をおくり、身辺自立ができるようにする。・抽出時は、勉強のみならず生活単元・作業学習も行い、年間を通して作品を1つ以上作成する。	

※ 数値目標もお書きください。

各教科における研修の重点

教 科 名	特別支援教育
<ul style="list-style-type: none">・研修に積極的に参加し、障がいに関する知識を深める。そのため積極的に外部の研修会や講習会に参加する。・個別の教育支援計画・指導計画を元に、子ども一人ひとりの実態把握につとめ、研修の経験をもとに支援を行う。・生活単元の学習や作業学習を行い、生きる力を育てる。	